

2月は卒業や進級まで「あと〇日」という掲示が見られるようになり、「別れ」を意識し始める時期です。残された一日一日の子どもとの触れ合いを大切にしながら、子どもたちが1年間の歩みを充実感をもって振り返られるようにしたいものです。その際、配慮を要する子どもに対する支援も大切にし、温かい雰囲気の中で子ども一人一人が活躍できる環境づくりをしていきましょう。



<小学校>

児童の成長を感じ合いたい  
朝の会、帰りの会の工夫

年度末の朝の会や帰りの会で、自分の成長を発表させても漠然とした言葉になってしまいがち。特に低学年の子どもにとっては、意外と難しいものです。そこで、

「わたしの気付いたこと」

特別活動の時間等を使って「気付きカード」等を作るなどして、「3学期になって、わたしが気付いたこと」と題し、自分のまわりの「ひと・もの・こと」について気付いたことを発表します。



ポイント

発表の後、教師は、「〇〇さんは、こんなことに気付けるようになった。すごい成長だよ」と一言。子どもの気付きを、成長として位置付けるのが、この時期の評価のポイントです。子ども同士による成長の認め合いにつながります。

注意の持続が難しい児童への支援ポイント  
☆その子の困難さに応じた配慮をしましょう☆

○ 周囲の物や音、動きに反応してしまう。

⇒必要な物だけを机の上に出し、余計な物は出さないように声をかける。



○ 集中できる時間が短い。

⇒一度に取り組む問題数を調整したり、課題を自分で選択できるように複数用意したりする。



○ 気がそれると見ていたところに戻りにくい。

⇒自分でチェックできるように、黒板に学習の流れや手順表を示す。



配慮をした上で、楽しい授業にしましょう。

<中学校>

他のクラスに入ってみませんか？  
～朝と帰りとお昼の担任交替～

学級担任をしていると、自分の学級の生徒たちの見方が固定化してしまうことから、その子のよさを見落としてしまうことがあります。

そこで、「学年職員全員で学年の生徒を育てる」という視点に立ち、校長の了承の上、朝と帰りの会、給食を違う学級で過ごしてみませんか。

<他学級で過ごす時のポイント>

- ◇生徒（クラス）のよさを見つけ、伝えることを目的とする。
- ◇帰りの会では、1日過ごして分かったクラスのよさを具体的に伝える。ただし、他の生徒（クラス）との比較にならないよう留意する。
- ◇生徒から相談があった場合には、学年職員で情報を共有する。



見つけたよさは、学年会等で共有しましょう。また、この取組で見えてきたことは学級経営にも生かすなどして、生徒一人一人のよさが生きる学級づくりにつなげましょう。

衝動的な言動が多い生徒への支援ポイント

～生徒Nさんの姿～

友だちとのトラブルが多いNさん。大きな声を出したり、物にあたったりしています。



「自分の気持ちを相手に伝えられない」ことが原因の1つと考えられるかもしれません。

教師の支援①

事前に、イライラした時の対処方法として、気持ちの伝え方を考えさせ実際に声に出して練習する。



～Nさん～

イライラした時、練習した対処方法を実行する。

教師の支援②

対処できた姿を具体的な言葉で称賛し、他の場面の対処方法についてもロールプレイなどで練習を重ねる。